平成２０年　６月１２日
山形河川国道事務所
(財)山形県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ

一般国道１１２号　霞城改良事業
「山形城三の丸跡」発掘調査はじまる

～６月１６日（月）調査開始～

国土交通省山形河川国道事務所が進めている、山形市内の一般国道１１２号霞城改良事業（延長１，３００ｍ）は、今年３月に主要渋滞箇所である文翔館西交差点（旧旅篭交差点）に右折レーンの設置と歩道の整備を行い暫定供用し、山形市内の渋滞緩和と交通安全対策を進めました。

今後さらに事業を進めていく予定ですが、事業箇所が「山形城三の丸跡」上に位置していることから、文化財保護法に基づき調査を進めることになりましたのでお知らせします。

また、調査をすすめていく中で説明会を開催する予定です。

記

１．調査日時：平成２０年６月１６日（月）
～ 平成２０年１０月３０日（木）予定

２．調査区間：起点
終点　　山形県山形市旅篭町一丁目 地内

今回調査延長約L=１６０ｍ （対象面積1,700m2）

発表記者会：山形県政記者クラブ、山形建設業界専門紙

〈問い合わせ先〉
国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所
〒990-9580 山形市成沢西四丁目3-55　TEL：023-688-8421(代)

工務第二課長　高橋（たかはし）　秀典（ひでのり）（内線411）
建設監督官　安齋（あんさい）　俊彦（としひこ）（内線503）

〈問い合わせ先〉
(財)山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 上山市弁天二丁目15-1　TEL：023-672-5301(代)

調査課長補佐　伊藤（いとう）　邦弘（くにひろ）

別　紙

（１）【一般国道１１２号 霞城改良の概要】

● 山形市内を通過する一般国道１１２号は、幅員が狭く、主要渋滞箇所（文翔館西交差点：最大渋滞長1,950m）があり、主要幹線道路としての機能が低下しています。また平成１４年度に供用した東北中央自動車道山形中央ICに直結していることから、山形市内の玄関口として交通量の増加が見込まれます。

● 霞城改良事業は、山形市内の一般国道１１２号を現在の２車線から４車線に拡幅して、交通容量を確保し、歩道も整備し安全な歩行者空間を確保するため、平成１４年度から事業を進めています。

（２）事業概要

・起　　点　山形県山形市七日町一丁目
・終　　点　山形県山形市城北一丁目
・延　　長　Ｌ＝１．３ｋｍ
・道 路 種 別　第４種第１級
・計画車線数　４車線
・計 画 幅 員　W=３１m
（W=３０m　七日町一丁目から文翔館西交差点まで）
・設 計 速 度　４０ｋm/ｈ
（６０ｋm/ｈ　七日町一丁目から文翔館西交差点まで）

（３）事業経緯

・事 業 着 手　平成１４年度
・用 地 着 手　平成１５年度
・工 事 着 手　平成１９年度

（４）今回調査箇所、霞城改良平面図



「最上家在城諸家中町割図」
[元和８(1622) 年頃] に加筆



資　料

【山形城三の丸】

所 在 地　山形市霞城町
築 城 者　（最上義光）
築城時期　近世初期
史　　料　山形城下絵図

概　　要

山形市のほぼ中心街を囲繞する。三の丸の堀と土塁が建造されたのは１６世紀の最末期。三の丸は東西十四町五十間二尺（約1617m）、南北十四丁十五間（約1553m）にわたる。現在は山形市十日町の歌懸稲荷神社境内にある土塁と堀などを残して破壊されている。

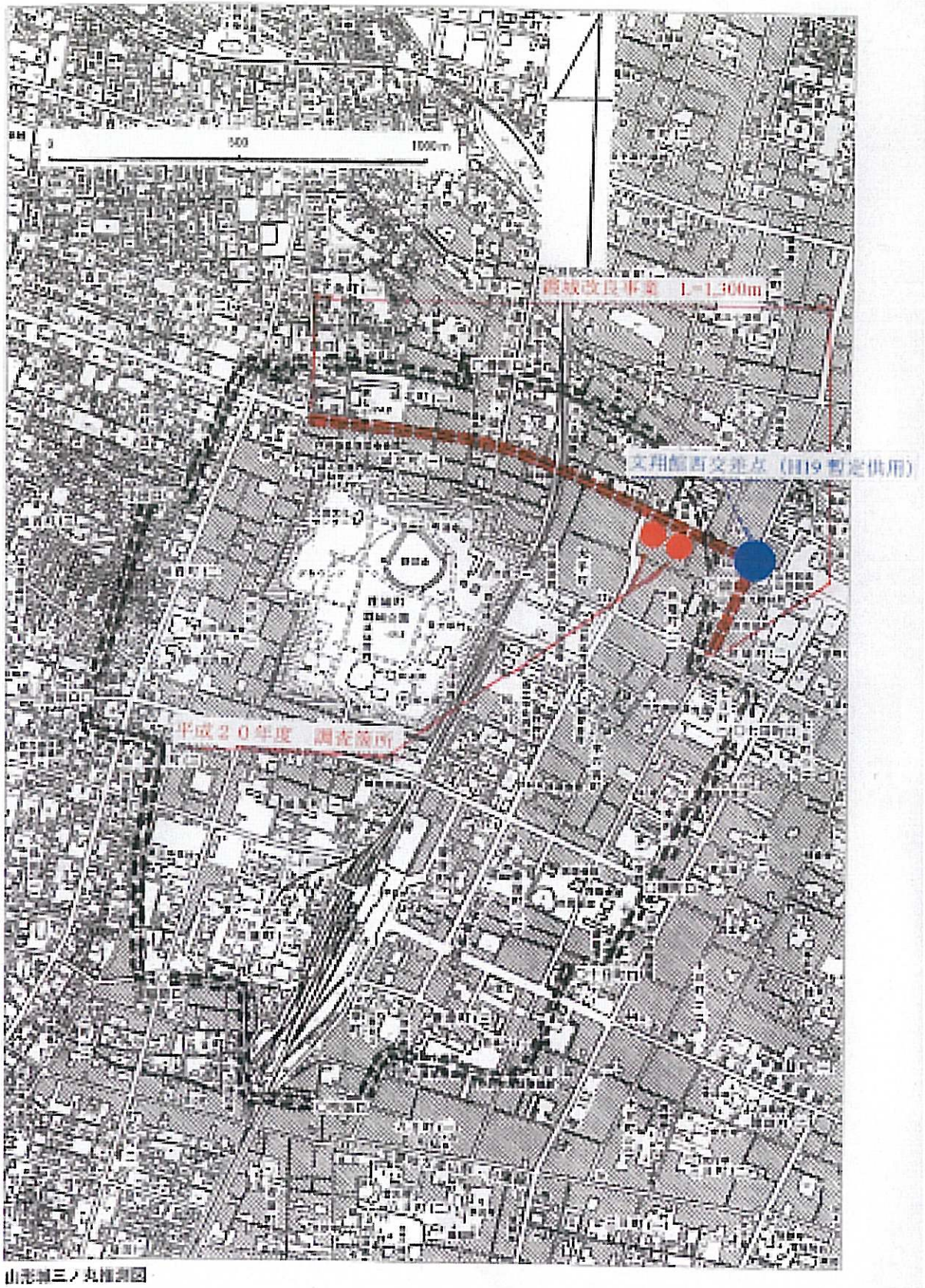
三の丸には七日町大手口・横町口・十日町口・八日町吹張口・飯塚口・小田口・下条口・肴町口・小橋口・鯨口の１１の出入り口があった。横町口付近の石垣の一部が、十日町の山形保健センター敷地内にある。下部は石垣で、その上に土をもっており、比高差は約３メートル。底辺部の東西は２３メートル。南北は２０メートル。

三の丸までが最上家臣団の居住空間であり、１１の門の外に町屋敷が拡がっていた。三の丸は中央部の本丸から見た場合、東側一帯が広いのに対して、西側は狭かった。山形城大手口が東側であり、町民の居住空間の大半が三の丸の東と南側であったことと密接に関係する。（参考 誉田慶信）

【平成１９年度試掘調査結果】

① 遺跡名　　山形城三の丸跡
② 調査日　　平成１９年１１月１４日
③ 調査主体　山形県
④ 調査方法　重機で調査トレンチを掘り、壁面と底面を精査し堆積土層と遺構遺物を確認。
⑤ 調査面積　25.5m2
⑥ 調査結果
- 種別　　城館跡（古代・中世～）
- 遺跡環境　市街地にあたり、宅地・商店等になっている。三の丸土塁内部に位置すると推定される。
- 検出遺構　溝跡　土壙　柱穴
- 出土遺物　土師器片　あかやき土器片　須恵器甕片　近世陶磁器類

⑦ 所見
- 試掘の結果各トレンチから、近世以前の遺構が検出された。あわせて、古代・中世・近世以降の遺物が出土し、時期的に複合したエリアと想定される。試掘調査を実施した三の丸内部は、後世の攪乱も認められたが、盛り土や表土下に良好に遺構が残されているものと考えられる。（山形県教育委員会）



山形城三ノ丸推測図

【平成１９年度　試掘調査】







【トレンチ調査状況】



【試掘調査で確認された
須恵器、土師器　陶磁器類】